

水稻の直播新技術導入に向けた研修会を開催（世羅町）

【平成31年3月26日掲載】

平成31年3月12日、世羅町で、JA尾道市と当所の共同企画によるべんモリ（べんがらモリブデン）直播の研修会を開催し、集落法人や関係機関40名が参加しました。

べんモリ直播は、農研機構九州沖縄農業研究センターが開発した水稻直播の新技術で、現在普及している鉄コーティング直播に比べて、①種子コーティングに係る資材コストが安価であること、②種子コーティング時の発熱による発芽不良のリスクがないこと、③土中播種であるため耐倒伏性が高まるといったメリットがある一方で、鳥害のリスクが高いといったデメリットもあります。

研修会では、べんモリ直播を開発した農研機構の原 嘉隆（はら よしたか）上席研究員による、この技術の特徴、実際の作業工程の説明やコーティングの実演が行われました。研修会に参加した農業者からは、「現在の直播よりも安価で安定的な栽培ができるのであれば、次年度の作付けから一部導入してみたい」と本技術に期待する声が聞かれました。

近年、水稻の基幹作業者の高齢化や規模拡大に伴う春作業の省力化等を背景として、直播栽培に対する関心が高まってきており、当所では関係機関と連携し、各種直播栽培の現地における技術確立と普及定着に取り組むこととしています。



【コーティング実演の様子】



【べんがらモリブデン被覆種子】